

ご利用の手引

データベース管理編

2024/5/17
Ver. 1.2

目 次

第 1 章 データベース管理.....	1
1-1 アイコンについて	2
1-1-1 メニューアイコン	2
1-1-2 操作アイコン	2
1-1-3 ラベルアイコン	3
1-2 ログイン.....	4
1-3 テーブル作成.....	5
1-4 テーブル変更.....	7
1-4-1 テーブルの表示	7
1-4-2 テーブル属性の変更	8
1-4-3 フィールド属性の変更.....	9
1-4-4 フィールドの追加	10
1-4-5 フィールドの削除	11
1-5 テーブル削除.....	12
1-6 データ登録.....	13
1-7 データ検索.....	14
1-8 データ更新.....	15
1-9 データ削除.....	16
1-10 ログアウト.....	17

NOTICE

注意すべき点、確認すべき点を説明します。

Hint

知っておくと便利な点を説明します。

第1章 データベース管理

MySQL データベース管理ツールとして、phpMyAdmin をご利用いただけます。phpMyAdmin を使用することで、データベースに対する各種設定を WEB ブラウザ上から簡単に行うことができます。

本ご利用の手引では、phpMyAdmin の基本的な操作方法について記載しています。

- **アイコンについて**
phpMyAdmin の各画面に表示されるアイコンについての説明を記載しています。
- **ログイン/ログアウト**
phpMyAdmin へのログイン、ログアウト方法について記載しています。
- **テーブルの管理**
テーブルを作成、変更、削除する方法について記載しています。
- **データの管理**
テーブルへのデータ登録、登録済みデータを検索、更新、削除する方法について記載しています。

Hint

- データベースご利用に関する留意事項は、「ご利用の手引 ホームページ作成編」をご参照ください。
- MySQL データベースの詳しい仕様については、公式リファレンスマニュアルをご参照ください。
<http://dev.mysql.com/doc/refman/5.1/ja/>

NOTICE

- このサービスは WEB ブラウザの設定を「Cookie を受け付ける」にしてご利用ください。
- WEB ブラウザによる以下操作は不具合の原因となりますのでご遠慮ください。
 - 「戻る」、「進む」、「閉じる」ボタンでの操作
 - 「更新」ボタン、「F5」キーでの操作
- 画面上に表示されるボタンおよびリンクによる操作をお願いします。

1-1 アイコンについて

phpMyAdmin の各画面に表示されるアイコンについて説明します。



Hint

画面上のアイコンにマウスカーソルをあわせると、アイコンの簡単な説明が表示されます。

1-1-1 メニューアイコン

画面の左上には、常に「メニューアイコン」が表示されます。

「メニューアイコン」をクリックした際の動作は以下の通りです。

メニューアイコンをクリックした際の動作	
	メインページを表示します。
	ログアウトします。
	SQL 実行画面（クエリウィンドウ）を別ウィンドウで開きます。
	phpMyAdmin のリファレンスドキュメント（英語）を別ウィンドウで開きます。
	MySQL のリファレンスマニュアル（英語）を別ウィンドウで開きます。

1-1-2 操作アイコン

データベース画面やテーブル画面では、画面上の「操作アイコン」をクリックすることにより、テーブル変更やデータ登録を行うことができます。

「操作アイコン」をクリックした際の動作は以下の通りです。

データベース画面の操作アイコンをクリックした際の動作	
	テーブルに登録されているデータ（レコード）を表示します。
	テーブルの構造を表示します。
	テーブルに登録されているデータ（レコード）を検索する画面を表示します。
	テーブルにデータ（レコード）を登録する画面を表示します。
	テーブルに登録されているデータ（レコード）をすべて削除し、テーブルを空にします。
	テーブルを削除します。

テーブル画面の操作アイコンをクリックした際の動作	
	テーブルに登録されているデータ（レコード）を表示します。
	フィールド属性を編集する画面を表示します。
	フィールドを削除します。
	フィールドに主キーを作成します。
	フィールドにユニークキーを作成します。
	フィールドにインデックスキーを作成します。
	フィールドに全文検索インデックスを作成します。



Hint

データベース画面を表示する方法については、「1-3 テーブル作成」をご参照ください。

テーブル画面を表示する方法については、「1-4 テーブル変更」をご参照ください。

1-1-3 ラベルアイコン

テーブル作成画面やフィールド追加画面の入力フォームでは、フィールドに設定できるキーやインデックスの種別が「ラベルアイコン」で表示されます。

「ラベルアイコン」が表すキーやインデックスの種別は以下の通りです。

ラベルアイコンが表すキーやインデックスの種別	
	主キー
	インデックスキー
	ユニークキー
	全文検索インデックス

Hint

テーブル作成画面については、「1-3 テーブル作成」をご参照ください。
フィールド追加画面については、「1-4 テーブル変更」をご参照ください。

1-2 ログイン

以下 URL にアクセスすると、ログイン画面が表示されます。

<https://manage.f9.forbiz.jp/phpmyadmin/>

1

- ① 「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

Hint

ユーザ名、パスワードは、別途お客様に送付した登録通知書をご参照ください。

- ② 「実行する」ボタンをクリックしてログインします。

NOTICE

ログイン後、何も操作せずに 30 分経過した場合、自動的にログアウトします。

2

- ③ メニュー（画面左）にお客様のデータベース名が表示されていることをご確認ください。

Hint

お客様のデータベース名はログインユーザ名と同じ名前に設定されています。

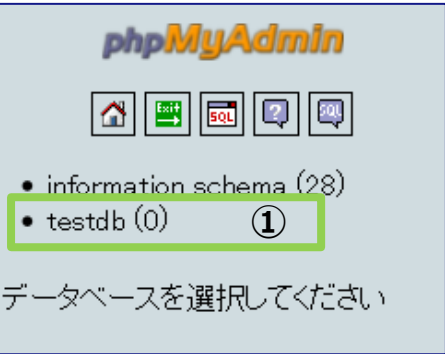
NOTICE

「information_schema」データベースには、MySQL サーバが保持する各種データベース情報が格納されています。お客様でのご利用はご遠慮ください。

1-3 テーブル作成

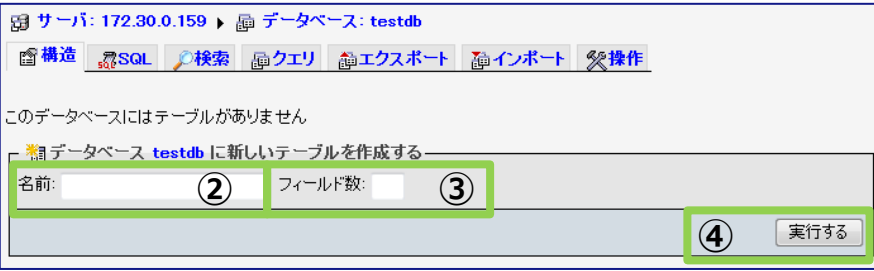
お客様のデータベースにテーブルを作成する方法について説明します。

1

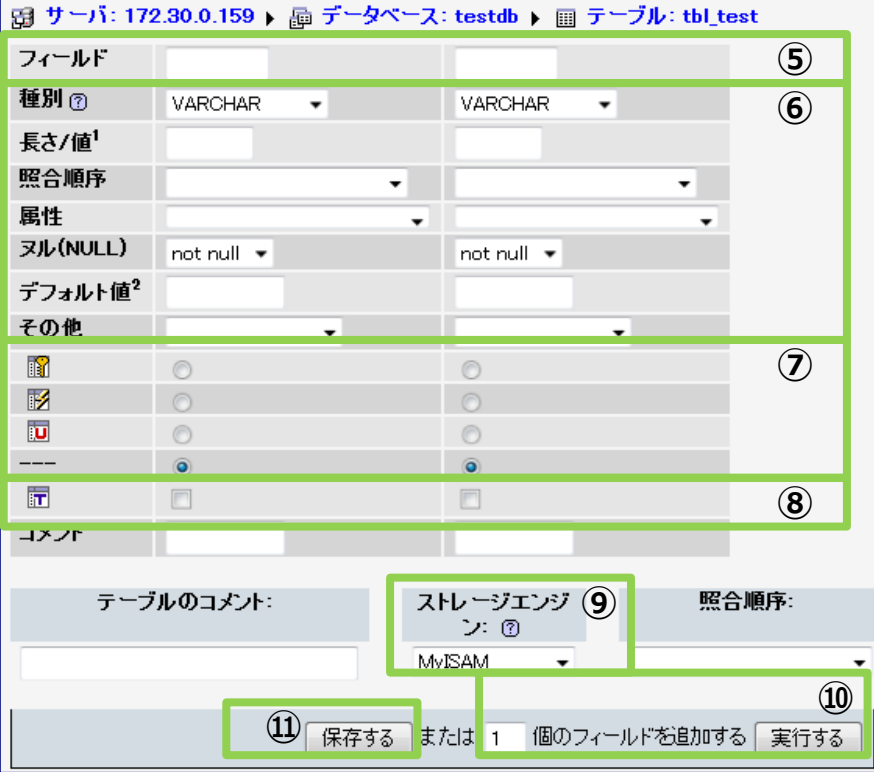


データベースを選択してください

2



3



① メニューの「データベース名」をクリックしてデータベース画面を表示します。

② テーブルの名前を入力します。

③ フィールド数を入力します。

④ 「実行する」ボタンをクリックしてフィールド情報を設定する画面に進みます。

⑤ フィールドの名前を入力します。

⑥ フィールドの各種属性を設定します。

⑦ 主キー、 インデックスキー、 ユニークキーを設定します。設定しない場合は、「---」を選択します。

⑧ 全文検索インデックスを作成する場合にチェックします。

⑨ ストレージエンジンを選択します。

⑩ フィールド数を増やしたい場合、追加するフィールド数を入力して「実行する」ボタンをクリックします。

⑪ 「保存する」ボタンをクリックします。

4

 テーブル `testdb`.`example\_tbl1` を作成しました

実行した SQL:

```
CREATE TABLE `testdb`.`example_tbl1` (
  `cd1` INT(6) NOT NULL AUTO_INCREMENT PRIMARY KEY,
  `cd2` VARCHAR(64) NOT NULL,
  INDEX (`cd2`)
) ENGINE = INNODB
```

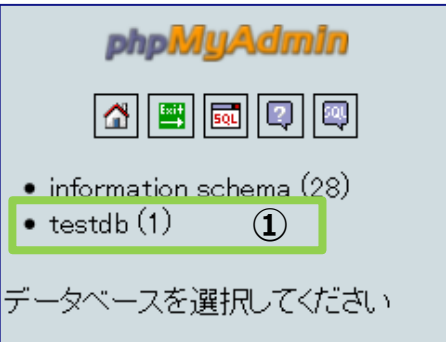
⑫ テーブル作成が完了し、実行結果が表示されます。

1-4 テーブル変更

お客様のデータベースに作成済みのテーブルを表示、変更する方法について説明します。

1-4-1 テーブルの表示

1



データベースを選択してください

① メニューの「データベース名」をクリックしてデータベースを選択します。

2



② メニューの「テーブル名」をクリックします。

3



③ テーブルが表示されます。

1-4-2 テーブル属性の変更

テーブル属性を変更する方法について説明します。

1

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする

削除

フィールド	種別	照合順序	属性	ヌル (NULL)	デフォルト値	その他	操作
col1	int(6)			いいえ	auto_increment		
col2	varchar(64)	utf8_general_ci		いいえ			

すべてチェックする / すべてのチェックを外す チェックしたものを:

- ① 「操作」タブをクリックしてテーブル属性変更画面を表示します。

2

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする

削除

テーブルの並び順
col1 (1回) 昇順 実行する

テーブルの移動先(database.table):
testdb . example_tbl1
☒ AUTO_INCREMENT 値を追加する
実行する

テーブルオプション
リネーム後のテーブル名 example_tbl1
テーブルのコメント
ストレージエンジン ② InnoDB
照合順序 utf8_general_ci
auto_increment 1
実行する ③

テーブルを(database.table)にコピーする:
testdb .
☐ 構造のみ
☒ 構造とデータ
☐ データのみ
☐ DROP TABLEを追加
☐ AUTO_INCREMENT 値を追加する
☐ コピーしたテーブルに切り替える
実行する

- ② 「テーブルオプション」フォームに変更後の値を設定します。

- ③ 「実行する」ボタンをクリックします。

Hint

本画面では、テーブルを移動またはコピーすることもできます。ただし、お客様が使用できるデータベースは 1 つのみとなっていますので、テーブルの移動先またはコピー先に別のデータベースを選択することはできません。

NOTICE

すでに作成済みのテーブルに対してコピーする場合、「DROP TABLE を追加」を選択するとコピー先のテーブルおよびデータが一旦削除されます。ご注意ください。

3

① テーブル example_tbl1 を example_tbl2 にリネームしました

実行した SQL:

```
RENAME TABLE `testdb`.`example_tbl1` TO `testdb`.`example_tbl2`;
```

- ④ テーブル属性変更が完了し、実行結果が表示されます。

1-4-3 フィールド属性の変更

テーブルのフィールド属性を変更する方法について説明します。

1

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする 削除

フィールド	種別	照合順序	属性	ヌル (NULL)	デフォルト値	その他	操作
col1	int(6)			いいえ		auto_increment	
col2	varchar(64)	utf8_general_ci		いいえ			

すべてチェックする / すべてのチェックを外す チェックしたものを:

① ②

- ① 属性を変更するフィールドをチェックします。
- ② アイコンをクリックしてフィールド属性変更画面を表示します。

2

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする 削除

フィールド	col2	③
種別	VARCHAR	④
長さ/値 ¹	64	
照合順序	utf8_general_ci	
属性		
ヌル(NULL)	not null	
デフォルト値 ²		
その他		
コメント		

⑤ 保存する

- ③ フィールド名を変更する場合、変更後の名前を入力します。
- ④ フィールドの各種属性を設定します。
- ⑤ 「保存する」ボタンをクリックします。

3

ⓘ テーブル example_tbl1 を変更しました

実行した SQL:

```
ALTER TABLE `example_tbl1` CHANGE `col2` `col2_upd` VARCHAR(128) CHARACTER SET
```

- ⑥ フィールド属性変更が完了し、実行結果が表示されます。

1-4-4 フィールドの追加

テーブルにフィールドを追加する方法について説明します。

1

① 追加するフィールド数を入力します。

② フィールドを追加する位置を選択します。

③ 「実行する」ボタンをクリックしてフィールド情報を設定する画面に進みます。

2

④ フィールドの名前を入力します。

⑤ フィールドの各種属性を設定します。

⑥ 主キー、インデックスキー、ユニークキーを設定します。設定しない場合は、「---」を選択します。

⑦ 全文検索インデックスを作成する場合にチェックします。

⑧ フィールド数を増やしたい場合、追加するフィールド数を入力して「実行する」ボタンをクリックします。

⑨ 「保存する」ボタンをクリックするとフィールド追加が完了します。

1-4-5 フィールドの削除

テーブルからフィールドを削除する方法について説明します。

1

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする

フィールド	種別	照合順序	属性	NULL (NULL)	デフォルト値	その他	操作
☒ col1	int(6)			いいえ		auto_increment	
☐ col2_upd	varchar(128)	utf8_general_ci		はい	NULL		
☐ col3	varchar(255)	utf8_general_ci		いいえ			

↑ すべてチェックする / すべてのチェックを外す チェックしたものを:

2

本当に実行しますか?:

```
ALTER TABLE `example_tbl1`
DROP `col1`;
```

はい
いいえ

① 削除するフィールドをチェックします。

Hint

テーブルからすべてのフィールドを削除することはできません。すべてのフィールドを削除しようとした場合、エラーとなります。

② アイコンをクリックすると削除確認画面が表示されます。

③ 「はい」ボタンをクリックするとフィールド削除が完了します。

④ 「いいえ」ボタンをクリックするとフィールド削除を中止します。

Copyright© its communications Inc. All rights reserved.

-11-

1-5 テーブル削除

テーブルを削除する方法について説明します。

1

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 挿入 エクスポート インポート 操作 空にする

削除 ①

フィールド	種別	照合順序	属性	ヌル (NULL)	デフォルト値	その他	操作
col1	int(6)			いいえ	auto_increment		
col2	varchar(64)	utf8_general_ci		いいえ			

↑ [すべてチェックする](#) / [すべてのチェックを外す](#) [チェックしたものを](#)

2

http://manage.f9.forbiz.jp のページから:

❓ 本当に実行しますか? :
DROP TABLE `example\_tbl1`

② OK キャンセル ③

3

📢 テーブル example_tbl1 を削除しました (クエリの実行時間 0.0004 秒)

実行した SQL: _____

DROP TABLE `example\_tbl1`

- ① 「削除」タブをクリックすると削除確認ダイアログが表示されます。
- ② 「OK」ボタンをクリックするとテーブル削除が完了し、実行結果が表示されます。
- ③ 「キャンセル」ボタンをクリックするとテーブル削除を中止します。
- ④ 「削除」タブをクリックすると削除確認ダイアログが表示されます。

1-6 データ登録

お客様のデータベースに作成済みのテーブルにデータ（レコード）を登録する方法について説明します。

1

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl1

表示 構造 SQL 検索 **挿入** エクスポート インポート 操作 空にする

削除

フィールド	種別	照合順序	属性	NULL	デフォルト	その他	操作

2

サーバ: 172.30.0.159 ▶ データベース: testdb ▶ テーブル: example_tbl2

表示 構造 SQL 検索 **挿入** エクスポート インポート 操作 空にする

削除

フィールド	種別	関数	NULL(NULL)	値
col1	int(6)			
col2_upd	varchar(128)		☒	

☒ 無視

フィールド	種別	関数	NULL(NULL)	値
col1	int(6)			
col2_upd	varchar(128)		☒	

新しい行として挿入する ▶ 続いて ▶ 前のページに戻る ▶

☒ 行から挿入を再開する

- ① 「挿入」タブをクリックしてデータ登録画面を表示します。
- ② 関数を使用してデータを登録する場合、関数を選択します。
- ③ 各フィールドに登録する値を入力します。
- ④ 単一のレコードを登録する場合、各入力フォームの「実行する」ボタンをクリックします。
- ⑤ 複数のレコードを同時に登録する場合、画面下部の「実行する」ボタンをクリックします。
- ⑥ いずれかの「実行する」ボタンをクリックするとデータ登録が完了し、実行結果が表示されます。

Hint

複数レコードを同時登録する場合、入力フォーム左上の「無視」がチェックされているデータについては、登録されません。

i 挿入した行数: 2
挿入した行 ID: 2

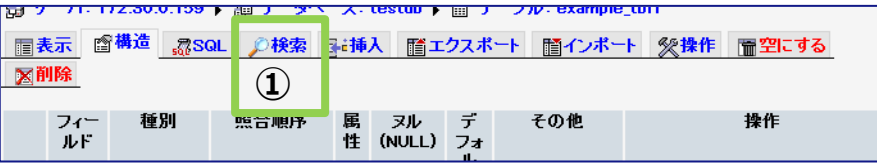
実行した SQL:

```
INSERT INTO `testdb`.`example_tbl2` (
  `col1`,
  `col2`
)
VALUES (
  NULL, 'データ1'
), (
  NULL, 'データ2'
)
```

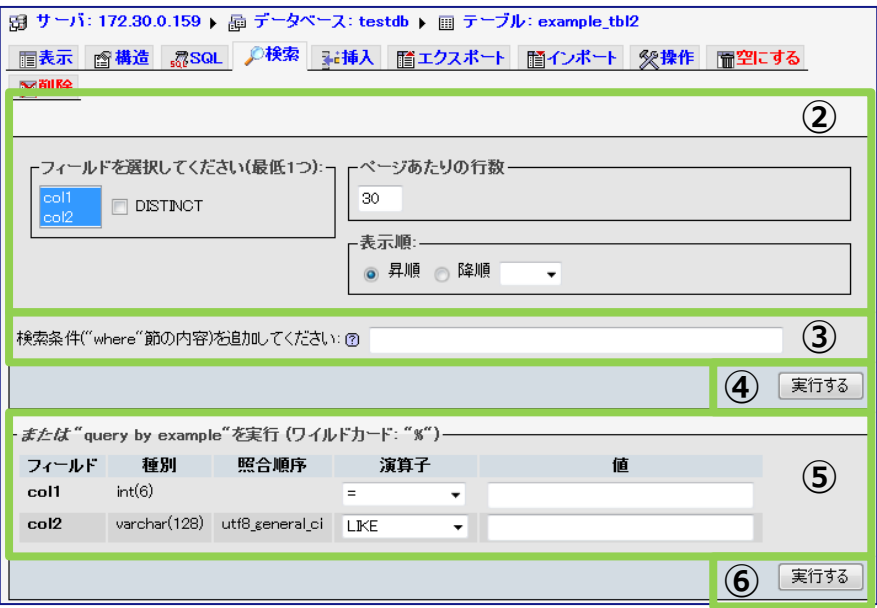
1-7 データ検索

テーブルに登録されているデータ（レコード）を検索する方法について説明します。

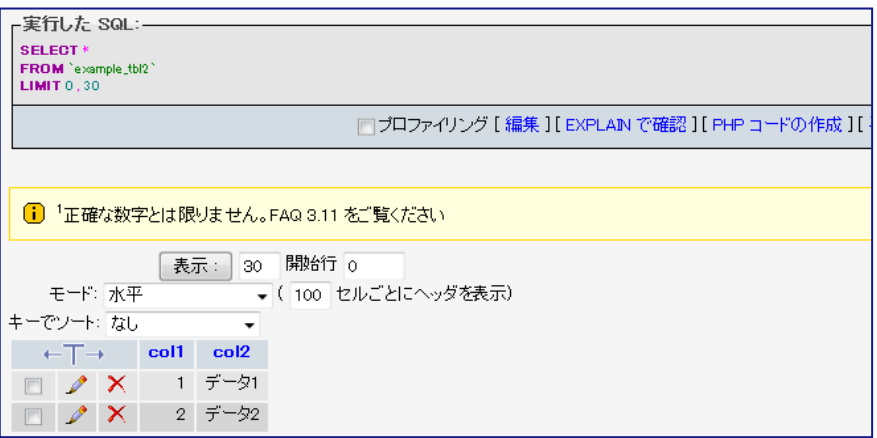
1



2



3



① 「検索」タブをクリックしてデータ検索画面を表示します。

② 検索するフィールド、1 ページに表示するレコード数、表示順（ソート条件）を指定します。

③ 任意の検索条件（where 節の内容）を入力します。

④ 任意の検索条件（where 節）を指定して検索する場合、その下にある「実行する」ボタンをクリックします。

⑤ 各フィールドの検索条件を指定します。

⑥ 各フィールドの検索条件を指定して検索する場合、その下にある「実行する」ボタンをクリックします。

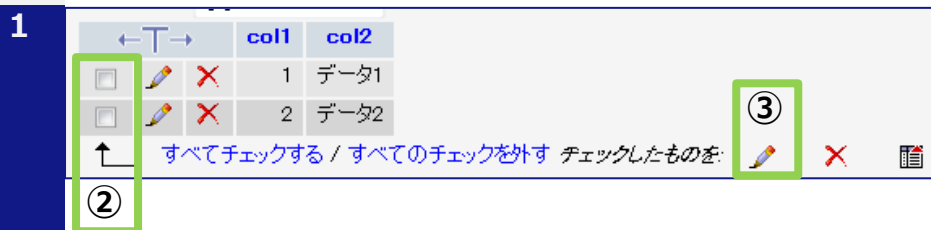
⑦ いずれかの「実行する」ボタンをクリックすると検索結果が表示されます。

Hint

④の「実行する」ボタンをクリックした場合、⑤で指定した検索条件は使用されません。
逆に⑥の「実行する」ボタンをクリックした場合、③で入力した検索条件は使用されません。

1-8 データ更新

テーブルに登録されているデータ（レコード）を更新する方法について説明します。



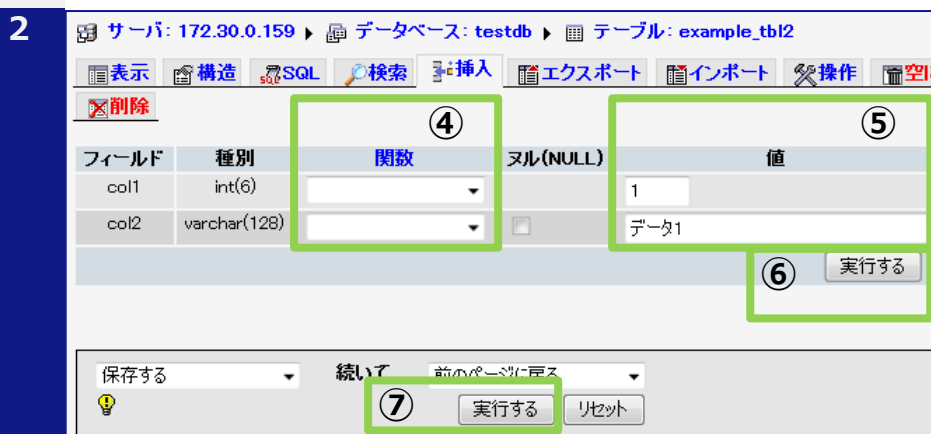
- ① 変更したいデータを検索して表示します。

Hint

データ検索の方法については、「1-7 データ検索」をご参照ください。

- ② データを更新するレコードをチェックします。

- ③ アイコンをクリックしてデータ変更画面を表示します。



- ④ 関数を使用してデータを更新する場合、関数を選択します。

- ⑤ 各フィールドの値を入力します。

- ⑥ 単一のレコードを更新する場合、各入力フォームの「実行する」ボタンをクリックします。

- ⑦ 複数のレコードを同時に更新する場合、画面下部の「実行する」ボタンをクリックします。

- ⑧ いずれかの「実行する」ボタンをクリックするとデータ更新が完了します。

1-9 データ削除

テーブルに登録されているデータ（レコード）を削除する方法について説明します。

1

← T →

col1

col2

1	データ1
2	データ2

すべてチェックする / すべてのチェックを外す
チェックしたものを

2

本当に実行しますか?:

DELETE FROM `example\_tb12` WHERE `example\_tb12`.`col1` = 4 LIMIT 1;

はい

いいえ

- ① 削除したいデータ（レコード）を検索して表示します。

 Hint

データ検索の方法については、「1-7 データ検索」をご参照ください。

- ② 削除するレコードをチェックします。

- ③  アイコンをクリックすると削除確認画面が表示されます。

- ④ 「はい」ボタンをクリックするとレコード削除が完了します。

- ⑤ 「いいえ」ボタンをクリックするとレコード削除を中止します。

1-10 ログアウト

メニューの  アイコン、またはホーム画面の「ログアウト」をクリックすると、ログアウトします。



本マニュアル記載の会社名、製品名、およびサービス名は、いずれも各社の商標または登録商標です。

本マニュアルは、当社に無断で転用、複製、翻訳、引用等することはできません。

記載内容は、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。

Copyright© its communications Inc.

イツツ・コミュニケーションズ株式会社
ご利用の手引 データベース管理編 Ver. 1.1

iTSCOM.net for Business サービスに関するお問い合わせ先
<https://business.form-mailer.jp/fms/bfe3d19757147>